

## 牛群検定通信 No52

### ◇ 次世代診断情報の変更について ◇

人工授精で使用した精液（交配種雄牛）の遺伝評価と、検定牛（母牛）の遺伝評価から、生まれてくる子牛の遺伝的な能力や近交係数を推定する「次世代診断情報」がリニューアルしますので、その概要をお知らせします。

#### 1 帳票の名称

これまでは「授精結果による次世代診断」でしたが、「次世代診断情報（授精結果診断）」と変更します。これは別途に「次世代診断情報（総合診断）」もあるので、呼称を統一するためです。

#### 2 交配種雄牛情報の拡充

これまで交配種雄牛の情報は長命連産効果に限って成績表示をしていましたが、総合指数（NTP）、産乳成分、耐久性成分、疾病繁殖性成分についても成績表示することとします。

これまでの次世代診断は、生まれてくる子牛の遺伝能力をPAという遺伝評価で表示することに重きを置いたため、農家がどういった種雄牛を選んでいるのか十分に把握することができませんでした。今回から交配種雄牛そのものの総合指数等を表示することで、選定している種雄牛の特徴をより把握しやすくなっています。

また、検定加入間もない農家や登録を取っていない検定牛についても、交配種雄牛情報は表示されるので、より活用できる対象が広がっています。

### 3 BCS（ボディコンディションスコア）

これまで、「分娩時注意情報」として難産と死産を表示してきました。今回から「飼養管理注意情報」と名称変更し、難産と死産に加え、BCSを追加します。考え方はこれまでの難産と死産にほぼ同様です。

#### （1）BCSに＋（プラス）と表示

遺伝的に育成後に過肥となりやすい子牛が生産される交配であることを示します。検定牛の父牛と交配種雄牛の遺伝能力のうちBCSがともにSBV＋1.0以上の場合に＋（プラス）と表示します。

#### （2）BCSに－（マイナス）と表示

遺伝的に育成後に削瘦となりやすい子牛が生産される交配であることを示します。検定牛の父牛と交配種雄牛の遺伝能力のうちBCSがともにSBV－1.0以下の場合に－（マイナス）と表示します。

（注意）用いるBCSは体格審査時のものを種雄牛の遺伝評価したもので、牛群検定の立会時に判定したBCSではありません。